



「住宅デー」で修繕ボランティア

広島県建設労働組合第12地域連合庄原が奉仕活動・6/25～28 No.6

全国統一「住宅デー」の6月25日を中心に、全国各地で建設労働組合による技術奉仕活動が行われました。市内では広島県建設労働組合第12地域連合庄原の組合員49人が各保育所・小学校・一人暮らしの高齢者宅を訪問し、施設などを修繕しました。12人の組合員が訪れた峰田保育所では、所内の建具の調整、園児の荷物を入れる棚やスノコなどを作製。同保育所の福留加寿美所長は「園児は『本物の大工さんが来た～』と迎え、皆さんの手際のよい作業に興味津々だった。棚などの製作や傷みのある所を修繕していただき、大変にありがたい」と喜んでいました。



▲峰田保育所でスノコを作る建労働組合員の皆さん

刀匠の久保さんが名刀を再現

新作名刀展高松宮記念賞を受賞 No.8

平成27年度新作名刀展で「高松宮記念賞」を受賞した、西城町在住の刀匠久保善博さんの作品が、7月14日から8月30日まで頼山陽史跡資料館（広島市中区）の特別展で紹介されています。受賞作品は、鎌倉時代から作られた備前長船の古刀が持つ特徴で、明治以降途絶えていた「映り」と呼ばれる模様を再現しています。久保さんは受賞を喜び、「刀の武器としての怖さではなく、「美しさ」に注目してもらいたい」と刀の魅力を語るとともに、「今後の現代刀の魅力発信にも尽力したい」と決意を述べていました。



▲名刀の前で受賞を喜ぶ久保さん

幻の音が復活

フィルモン音帯視聴会・7/5 No.5

昭和10年頃に発明されたフィルモン音帯（フィルムテープ）の視聴会が、口和郷土資料館で開催されました。同館に寄贈されたフィルモン音帯は、当時世界でも珍しい長時間レコードで、安部博良館長が長崎放送から預かっていた再生機械を約2カ月間かけて修理し、幻の音を復活させました。視聴会には約30人が訪れ、長唄、常盤津、軽音楽、国民歌謡などに聴き入りました。安部館長は「大変貴重なフィルモン音帯を寄贈され、どうしてもその音を聴きたく再生機を修理しました。ぜひ多くの皆さんに聞いてもらいたい」と話していました。



▲フィルモン音帯について語る安部館長(右)

夏の国定公園を満喫

帝釈峡ウォーク・7/12 No.7

国定公園帝釈峡で「帝釈峡ウォーク」が開催され、市内外から約160人が参加し、にぎわいました。今回用意されたのは、誰でも気軽に参加できる「かわせみコース(約5km)」と、健脚向けの「はんざきコース(約9km)」の2つ。参加者はボランティアガイドからコース沿いに現れる植物や岩の由来などの説明を聞きながら歩を進め、心地よい汗を流していました。雄橋に設置された給水所では、東城高校「東城応援隊」のメンバーがお茶を振る舞い、参加者の喉を潤しました。午後からは、東城中学校吹奏楽部と新見ウインドアンサンブルの演奏を聞きながら、川魚の塩焼きやトマトとキュウリの丸かじりなど地元の味を楽しみ、帝釈峡の魅力を満喫していました。



▲ウォーキングの様子

浴衣の着付けにチャレンジ

比和で着付け教室・7/6 No.2

浴衣の着付け教室が比和自治振興センターで行われ、町内から15人が参加しました。参加者は、美容師の貞兼由季さんと和服アドバイザーの米沢かおりさんに浴衣をきれいに着るコツ、帯の締め方などの指導を受けながら、実際に自分たちで浴衣の着付けにチャレンジ。初心者の方が着付けをすると思った以上に体力を使うようで、皆さん汗だくになりながら浴衣を着ていました。着付けを終えた人は「自分で着付けができるようになってうれしい。これからお祭りや花火大会にも着ていけるので楽しみにになった」と声を弾ませていました。



▲浴衣の着付けを習う参加者

しょうばら花会議が大臣表彰

花と緑の愛護活動が高く評価・5/29、6/8 No.4

「しょうばら花会議」は5月29日、宮崎県総合文化公園で開催された全国「みどりの愛護」のつどいに出席し、皇太子殿下ご臨席のもと、「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞しました。これは、国営備北丘陵公園内の花壇の手入れや、ガーデンニング講習会など、花と緑の愛護活動が高く評価されたものです。6月8日には、同会議の佐藤浩子理事長と齊木義伸副理事長が木山耕三市長を訪問し、受賞の喜びを語りました。木山市長は「今回の受賞は市民にとってもうれしいこと。これを励みに、市としても花と緑のまちづくりをさらに進めていきたい」と話していました。



▲木山市長に受賞を報告する佐藤理事長(中)と齊木副理事長(右)

農業体験で世代間交流

亀谷自治会が土曜塾・6/13 No.1

総領町亀谷自治会の子もたち7人が、地域住民13人と一緒にさつまいもの苗植えを行いました。同自治会では「土曜塾」と銘打ち、子どもを対象に地域の特色を生かした体験活動や世代間交流などを行っていて、さつまいもの苗植えは今年で7回目になります。子どもたちは落合訓光さんの畑で、地域の方の指導を受けながら用意された苗100本を手際よく植えました。植えた苗は、水やりなどして自分たちで育てます。秋には収穫し、地域の方が丹精込めて育てた農産物と一緒に、地域の収穫イベントで販売する予定です。



▲地域の方の指導で苗を植える子どもたち

森林の役割を学習

高野小児童が「森と水の学習会」に参加・6/25 No.3

アサヒビール(株)、林野庁・広島北部森林管理署、森林総合研究所広島水源林整備事務所が主催する「森と水の学習会」が、アサヒの森と俵原山国有林(高野町上湯川)で開催され、高野小学校5・6年生29人が参加しました。参加した児童は、枝打ちロボット作業見学や塩化ビニールパイプで川底の音を聴く実験、水の浄化実験や丸太切り体験を通じ、森林のさまざまな役割や水の大切さについて学習しました。参加した坂口宙くん(高野小6年)は「森は水を蓄えてくれていることが分かった。もっと森について調べてみたい」と興味を示していました。



▲丸太切りを体験する児童